

# フィールドワーク 選書 全20巻

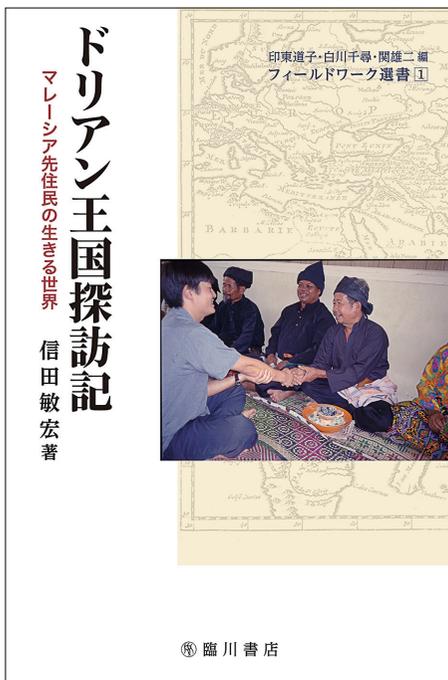
印東道子・白川千尋・関 雄二 編

臨川書店刊



2013年  
11月刊行  
開始

フィールドワーク  
選書  
全20巻



\*お近くの書店または小社までご注文ください。

各巻予価 2,000円+税 ■四六判並製・平均200頁

ISBN978-4-653-04230-3 (全20巻セット)

臨川書店

呈 出版目録

本社 / 〒606-8204 京都市左京区田中下柳町8番地 ☎075-721-7111 FAX075-781-6168  
東京 / 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-11-16 さいかち坂ビル ☎03-3293-5021 FAX03-3293-5023  
E-mail (本社) kyoto@rinsen.com (東京) tokyo@rinsen.com http://www.rinsen.com

## フィールドワーク選書 刊行にあたって

編集委員 印東道子・白川千尋 関 雄二

人類学者は世界各地の人々と生活を共にしながら研究を進める。何を研究するかによってフィールド(調査地)でのアプローチは異なるが、そこに暮らす人々と空間や時間を共有しながらフィールドワークを進めるのが一般的である。そして、フィールドで入手した資料に加え、実際に観察したり体験したりした情報をもとに研究成果を発表する。

実は人類学の研究でもっともワークワクし、研究者が人間的に成長することも多いのがフィールドワークをしているときなのである。フィールドワークのなかでさまざまな経験をし、葛藤しながら自身も成長する。さらにはより大きな研究トピックをみつけることで研究の幅も広がりをもたせ、ところが多くの研究書では研究成果のみがまとめられた形で発表され、フィールドワークそのものについては断片的にしか書かれていない。

本シリーズは、二〇人の人類学者たちがそれぞれのフィールドワークの起点から終点までを紹介し、それがどのように研究成果につながってゆくのかを紹介することを目的として企画された。なぜフィールドワークをしたのか、どのように計画をたてたのかにはじまり、フィールドでの葛藤や予想外の展開など、ドラマのようなおもしろさがある。フィールドで得られた知見が最終的にどのように学問へと形をなしてゆくのかまでが、わかりやすく描かれている。

これから人類学を学ぼうとする方々だけでなく、広くフィールドワークに関心のある方々に本シリーズをお読みいただき、一人でも多くの読者にフィールドワークのおもしろさを知っていただくことができれば、本シリーズを企画した編集者一同にとって、望外の喜びである。

# フィールドワーク選書

全20巻

印東道子・白川千尋・関雄二編

3ヶ月毎・各回2冊配本

■四六判・並製・平均200頁 各巻予価二〇〇〇円＋税  
■タイトル・配本順は一部変更になる場合がございます。

1 ドリアン王国探訪記  
マレーシア先住民の生きる世界

信田敏宏

2 微笑みの国の工場  
タイで働くということ

平井京之介

3 捕鯨文化の現実  
北極海にクジラを追う人びと

岸上伸啓

4 南太平洋のサンゴ島を掘る  
女性考古学者の謎解き

印東道子

5 人間にとってスイカとは何か  
カラハリ狩猟採集民と考える

池谷和信

6 南米アンデス文明の発掘と盗掘

関雄二

7 タイワンインノシシの肉と骨を追う  
民族学と考古学の出会い

野林厚志

8 身をもって知る技術  
マダガスカルのヴェズ漁師に学ぶ

飯田卓

9 変貌するフィールドワーク  
モンゴル草原の生活世界とともに

小長谷有紀

10 西アフリカを掘る

竹沢尚一郎

11 身体でみる異文化の世界

広瀬浩二郎

12 インド染織の現場

上羽陽子

13 シベリアで生命の暖かさを感じる

佐々木史郎

14 人類学者が運命論者になるとき  
南アジアのナシヨナリズム研究

杉本良男

15 言葉から文化を読む  
アラビアンナイトの言語世界

西尾哲夫

16 イタリア、ジェンダー、そして私

宇田川妙子

17 コリアン社会の変貌と越境

朝倉敏夫

18 故郷中国をフィールドワークする

韓敏

19 仮面の世界を探る  
アフリカ、そしてミュージアム

吉田憲司

20 病とむきあう  
オセアニアの医療と伝統

白川千尋

フィールドワーク選書 第1回配本

2013年11月同時2冊刊行

各本体2,000円＋税

## 1 ドリアン王国探訪記

マレーシア先住民の生きる世界 信田敏宏

オラン・アスリと呼ばれる先住民たちは、経済・文化の潮流にもまれながら、現在どのような生活を営んでいるのか。現地の人々との関係で苦悩し一度は調査地の変更を迫られるなど挫折を経験した著者自身のエピソードを交えつつ、農業開発やイスラーム化といった村の直面している問題と、そのなかで伝統的な人のつながりや儀礼を大切にしながらいきいきと暮らす人々のすがたを、豊富な写真とともにわかりやすく紹介する。



## 2 微笑みの国の工場

タイで働くということ 平井京之介

タイの農村出身の女性たちは、近代的な工場労働にどのように適応し、その結果彼女たちの価値観はどのように変わったのか、あるいは変わっていないのか。逆に日系企業は現地の人々を雇用するなかで、どのように自己の会社文化を守り、または変えていったのか。タイ人・日本人双方の利害のあいだで、そして一会社社員としての日常業務と研究者としての調査とのあいだでの試行錯誤の経験を通し、「働く」ということについて考える。

